

◎注意事項をよくお読み下さい

2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは7月31日（火）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		7月31日現在	8月の予想		(月末値)
USD	ドル・円 (円)	149.98	146.0	～	158.0
	日米金融政策や米大統領選を睨みながら振れやすい展開を見込む				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.083	1.06	～	1.09
	ユーロ・円 (円)	162.36	158.0	～	170.0
	ユーロは軟調な展開を見込むも、日米の金融政策に左右される展開				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.286	1.26	～	1.30
	ポンド・円 (円)	192.82	188.0	～	202.0
	英中銀の利下げ観測と日銀の利上げ観測からGBP円は上値の重い展開か				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	98.12	93.0	～	103.0
	NZドル・円 (円)	89.22	86.0	～	93.0
	豪ドル円は98円、NZドル円は89円割れのさらなる円高水準を試す展開に				
株式 相場	日経平均 (円)	39,102	37,000	～	40,000
	対中規制強化懸念から大幅調整。決算シーズンも始まるため様子見姿勢継続か				
	NYダウ (ドル)	40,843	38,000	～	42,000
長期 金利	米ハイテク株への決算期待から次第に上昇基調へと転じよう				
	日本 (%)	1.055	0.95	～	1.25
	国債買入が実際に削減されていくことで金利は上昇				
	米国 (%)	4.030	4.00	～	4.50
	現在の水準は概ね妥当値。基本的にはレンジ圏での推移を想定				

◆ 今月の注目ポイント

ジャクソンホール会合でのパウエルFRB議長発言が焦点

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	○	【1日 英中銀金融政策委員会】早ければ8月にも利下げを実施するとの見方が一部にあり、利下げの織り込み度合いは5割程度。ECBに続いて英中銀も利下げ転換すれば、GBPの売り圧力が強まることになろう。今回利上げ見送りとなっても9月の利下げ観測は強く、GBP買戻しの動きは限定的だろう。
経済	○	【6日 6月分毎月勤労統計】先月公表された5月分毎月勤労統計は、好調な春闘結果を反映して所定内給与の伸びが高まった。先月に続き賃金の伸びが加速し、日銀が更なる金融引き締めを模索する環境が整うことになるか要注目。
要人発言	◎	【22-24日 ジャクソンホール会合】今年のテーマは「金融政策の有効性と伝達の再評価」。市場では前のめりで9月利下げを織り込んでいるが、パウエルFRB議長がハト派トーンの発言で利下げ転換を示唆するか、タカ派トーンで市場に再考を促すのか要注目。

◆ アジア通貨見通し

	7月31日現在	8月の予想		(月末値)
人民元・円	20.75	20.00	～	22.00
バーツ・円	4.219	4.20	～	4.40
ルピア・円	0.923	0.90	～	0.96

◆ 今月の重要日程

1日 (木) 米	7月ISM製造業	14日 (水) 米	7月CPI
1日 (木) 英	英中銀金融政策委員会	15日 (木) 日	4-6月期GDP (一次速報)
2日 (金) 米	7月雇用統計	15日 (木) 米	7月小売売上高
5日 (月) 米	7月ISM非製造業	21日 (水) 米	FOMC議事要旨
6日 (火) 日	6月毎月勤労統計	23日 (金) 日	7月全国CPI
6日 (火) 豪	豪準備銀行理事会	30日 (金) 米	7月PCEコアデフレータ

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

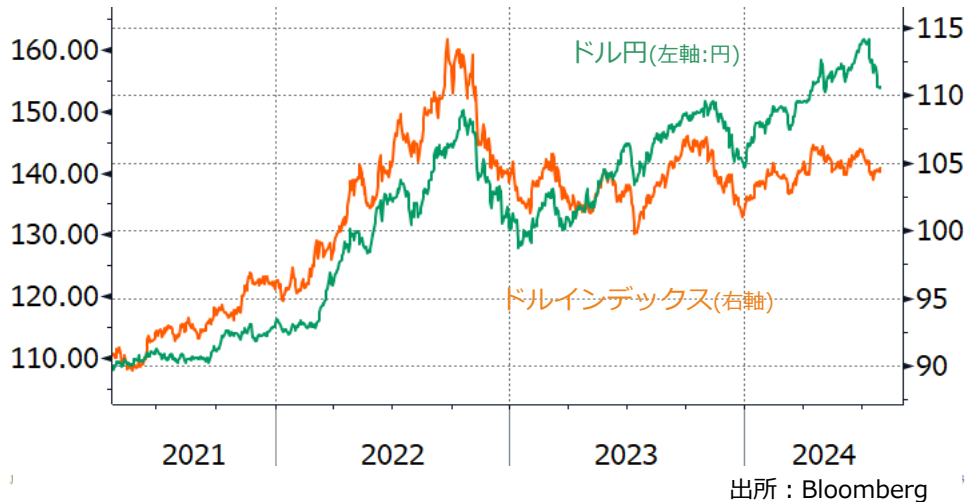
2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ド ル 円



米ドル円

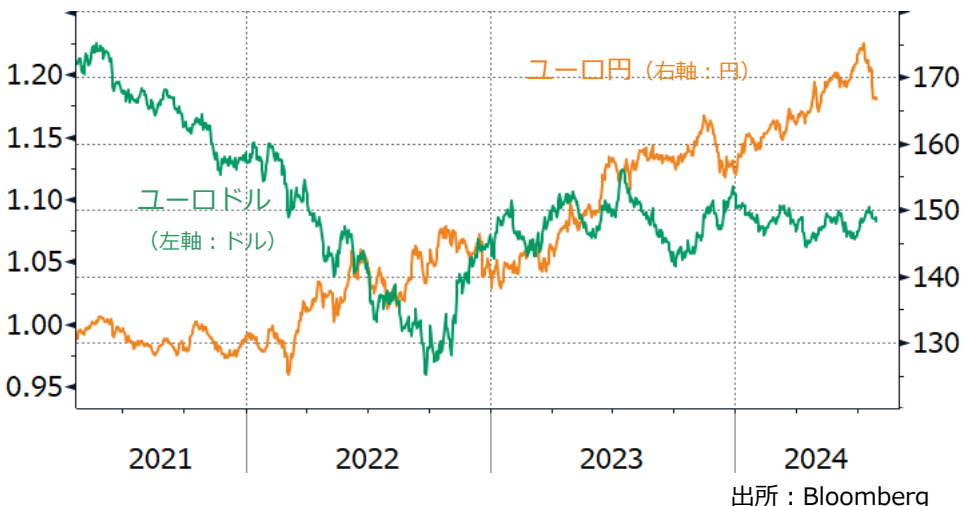
146.00 – 158.00円

日米金融政策や米大統領選を睨みながら振れやすい展開を見込む

7月のドル円相場は、米国の早期利下げ観測が強まる中でリスクオンムードが広がり、投機筋の円キャリートレードに伴う円売りの動きに前半は底堅く推移、約38年ぶり高値となる161円94銭を付けた。しかし、11日公表の米6月CPIが予想に反して前月比マイナスとなったことや、当局の円買い介入と見られる動きにドル円は急反落。月末に日銀決定会合やFOMCを控えて、円キャリートレードポジション巻き戻しの動きから一時151円台に下落した。

7月の円買い戻しの動きにより年初からのドル高円安トレンドは終焉となった公算。但し、デジタル赤字などの構造的な円安圧力は続くことから長期の円高トレンドに移行したと判断するのは尚早だろう。今月の最大の焦点は、下旬のジャクソンホール会合でのパウエルFRB議長の発言だが、市場は既に前のめりで年内2回以上の利下げを織り込んでいることから、金利低下余地は限定的、リスクは金利上昇方向となりそう。8月は夏枯れ相場で閑散となる中、日銀の追加利上げ時期やFRBの利下げ転換時期を巡る思惑や、米大統領選の行方などを睨みながら上下に振れやすい展開が見込まれ、ワイドなレンジを想定して臨みたい。

ユ ー ロ



ユーロドル

1.06 – 1.09ドル

ユーロ円

158.00 – 170.00円

ユーロは軟調な展開を見込むも、日米の金融政策に左右される展開

7月は7日に行われた仏議会選の決選投票で極右極左ともに過半数議席を獲得できず、喫緊の政局リスクは回避したと受け止められ、ユーロは6月以降に政局不安を要因として下落した分を戻した。中旬にかけては米早期利下げ観測の高まりからユーロドルは一時1.09ドルを越す局面もあったが、次第に足元の景気回復の停滞感が意識されユーロ高は一服。日銀の早期利下げ思惑が広がると、下旬にかけて対円では大幅に円高ユーロ安が進行した。

8月のユーロは、特にドイツを中心とした足元の景況感の弱さから対ドルは軟調な推移となりやすい。ただし、米国の年内2回利下げの蓋然性が高まってくるような展開であれば、下げ幅は限定的となるだろう。対円では、7月末の日銀会合で利上げが決定され更に円高が進行するような場合は、ここ1~2年の円安トレンドの下限である163~164円程度が一旦の目途となりそう。一方、利上げがなく金利差縮小が遠く展開であれば、ユーロ円は底堅い動きに回帰する。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

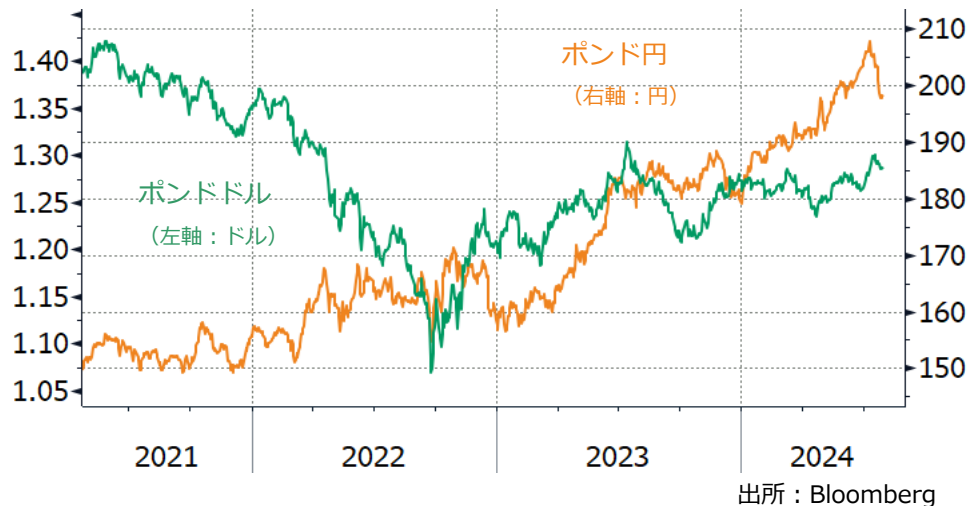
2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

1.26 – 1.30ドル

ポンド円

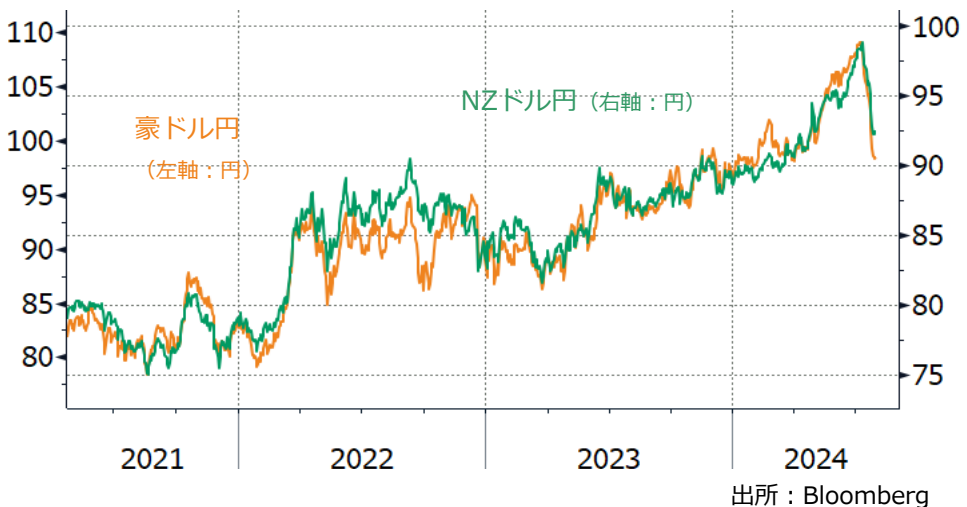
188.00 – 202.00円

英中銀の利下げ観測と日銀の利上げ観測からGBP円は上値の重い展開か

7月のGBPは対USDで上昇。弱い米経済指標によるUSD売りと英6月CPIが市場予想を上回ったことを受けたGBP買いに一時1.30台へ上昇した。一方、GBP円は、当局による円買い介入と見られるドル円急落や、投機筋の円キャリートレードポジションの巻き戻しの動きを受けてクロス円全般が下落する中、GBP円も207円台の高値から反落、一時195円台を付けた。

8月のポンド円は、上値の重い展開を見込む。1日の英中銀金融政策委員会では一部利下げ期待もあるものの、CPIは前年比2%まで低下したが、粘着性の強いサービス物価は同5.7%と依然として高止まりしていることから、政策金利は据え置きが決定される可能性がある。但し、市場では次の9月までの利下げを9割以上見込んでいることから、GBP買戻しの動きは限定的だろう。今年前半の円安の動きが一服してきていることから、休暇シーズンで閑散とした商いが想定される中、GBP円の上値は徐々に重くなる展開を予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

93.00 – 103.00円

NZドル円

86.00 – 93.00円

豪ドル円は98円、NZドル円は89円割れのさらなる円高水準を試す展開に

7月のオセアニア通貨は対ドル・対円ともに下落した。NZ中銀がハト派転換し早ければ8月にも利下げが見込まれるとの観測があったほか、中国の景気減速懸念による資源安やリスクオフの流れがオセアニア通貨売りを促したとみられる。日銀の利上げ観測報道を受けた円キャリートレードの巻き戻しの動きから、対円では特に下落幅が大きくなった。

8月のオセアニア通貨は軟調な展開を見込む。引き続き中国景気不安や日銀のタカ派姿勢がオセアニア通貨の重しとなる。中国人民銀行が7月に予想外の利下げを行うなど景気下支えの姿勢を見せているほか、米国の9月利下げに向けた織り込みの進捗などオセアニア通貨に対する下押し圧力の緩和が望める材料は次第に出てくるものの、足元では豪ドル円が99円台、NZドル円が89円台まで急ピッチに下落してきており、目先は更なる円高が進行する可能性が十分に考えられる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

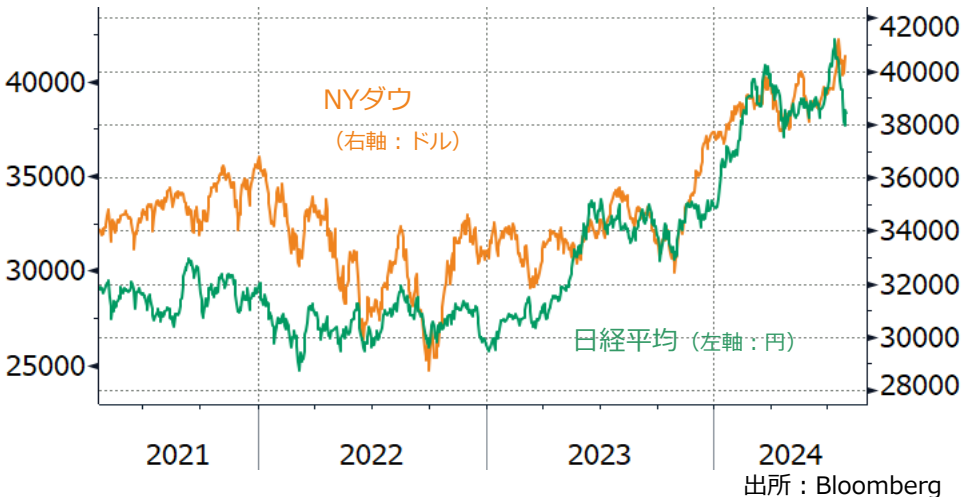
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

37,000 – 40,000円

対中規制強化懸念から大幅調整。決算シーズンも始まるため様子見姿勢継続か

グローバルに見た日本のハイテク株の割安感から、海外投資家が日本株を買い越し、日経平均株価は最高値を更新したが、米バイデン政権が対中規制強化を検討と伝わり、大幅調整となった。中国が国内で半導体を製造することを妨害する意図があると推察される。半導体製造装置メーカーは最も悪影響を受ける業種の一つで、同セクター比率の大きい日本株の上値は重くなる。8月以降決算シーズンに入ることもあり、様子見姿勢の継続に拍車がかかろう。

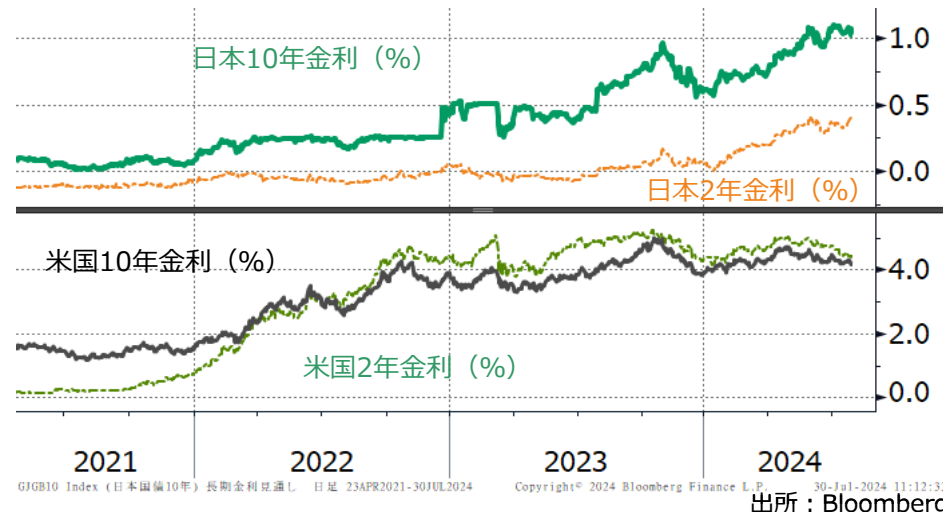
NYダウ

38,000 – 42,000ドル

米ハイテク株への決算期待から次第に上昇基調へと転じよう

米バイデン政権の対中規制強化は、ハイテク株にネガティブだが、これまで市場をけん引してきたエスビディアを筆頭に、AI関連の先端半導体製造にかかわる企業の中国売上高比率は、大きくはない(エスビディアでは10%程度)。株価は売られ過ぎの感があることもあり、市場が落ち着きを取り戻すにつれて、決算を先回りした買いが入り株価は徐々に上昇基調へと転じよう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

0.95 – 1.25%

日銀による国債買入の減額の具体化と、政策金利の正常化見通しで金利は上昇

日銀は7月31日の決定会合で、国債買入の減額の具体策を公表した。今後はそれに沿って日銀による市場での買入額（フロー）が削減されるとともに、日銀が既に保有している国債の償還額よりも買入額が少なくなることから、保有残高（ストック）も減少していく。日銀のバランスシートの削減に目途が立ったことで、政策金利の正常化見通しが強まっていくこともあり、金利は上昇していくと見ている。

米国債10年

4.00 – 4.50%

現在の水準は概ね妥当値。基本的にはレンジ圏での推移を想定

市場では9月利下げ開始との見方が強まり、米金利は6月末から低下した。利下げ開始時期について、インフレ率の見通しなどを勘案すると、12月の可能性も否定はできないが、いずれにしても、長期金利の水準は、年内の利下げ開始時期以上に、FRBの合計利下げ回数が何回になるか、に左右される。現時点でこうした中長期の利下げパスについて市場の予想を動かすような材料に乏しく、従って、米金利は横ばい圏で推移する可能性が高い。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

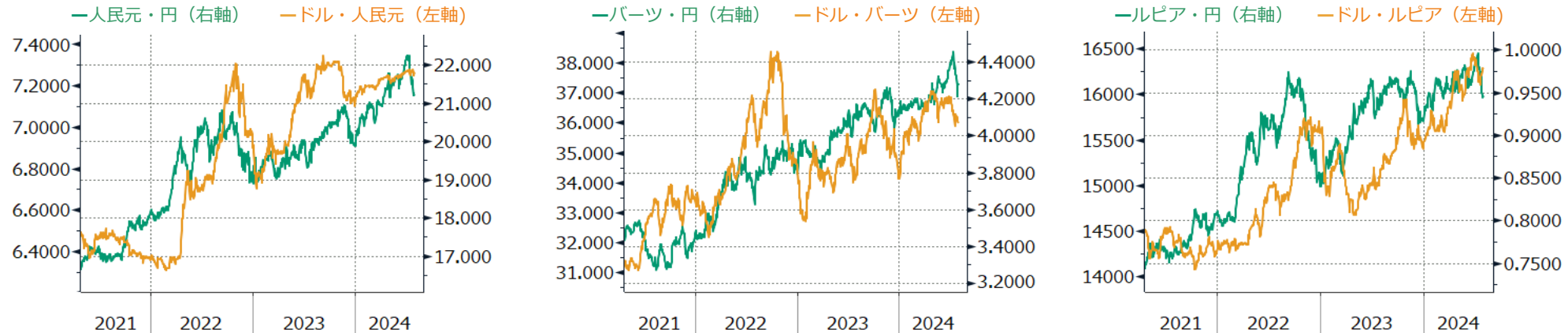
2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		8月の予想	見通し
中国	人民元/円	20.00 ～ 22.00	中国当局の景気下支えと米利下げ期待の高まりでドル人民元の頭打に注目 7月は米国の6月分のCPIが予想を下回る結果となり、米国の利下げのタイミングが意識されドル人民元が下落した。また、22日には中国人民銀行が企業向けや住宅ローンの貸出の基準となる政策金利を予想外に引き下げている。中国の三中全会では新たな景気対策は打ち出されなかったものの、中国当局による景気下支えの姿勢は更に強まっている。こうした米国の利下げタイミングの接近と、中国当局による景気下支えによって、ドル人民元が頭打ち、さらにそれが転換点となっていくかが注目となる。
	ドル/人民元	7.20 ～ 7.30	
タイ	バーツ/円	4.20～4.40	金融政策は不変でドル/バーツはレンジ圏での推移を予想 7月のドル/バーツは、大きな材料に乏しい中、一進一退で推移し、ややバーツ高が進行した。今後を展望すると、インフレは沈静化しつつあるが、利下げを急げば自国通貨安やそれに伴うインフレ再燃が懸念される中では、当局がFRBより前に利下げに転じるとは考えづらい。両国の金融政策動向を窺って様子見姿勢が強まり、レンジ圏での推移となろう。
	ドル/バーツ	35.5～37.5	
インド	100ルピア/円	0.90～0.96	円高ルピア安の地合いは継続する可能性 中銀会合での年内利下げ示唆後、再度対ドルでルピア安に転換。また、足元の急速な円高進行から、対円は先月末時点からおよそ4%の大幅な下落となった。これほどの円高進行は一旦落ち着くとみるが、日銀会合の結果次第では8月も円高ルピア安の地合いが続く可能性に留意が必要だろう。
	ドル/ルピア	15,900～16,500	



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年		2025年		ポイント
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
ドル円	レンジ	145～165	140～160	140～155	140-155	日銀に対する追加利上げ期待を背景に年初からの円安トレンドは途切れた模様。日米金融政策を巡る思惑や米大統領選を材料に上下に振れやすい展開が続く。
	期末値	150	145	145	145	
ユーロドル	レンジ	1.05 ～ 1.10	1.00 ～ 1.10	1.03 ～ 1.13	1.05 ～ 1.15	フランス政局不安は最悪のシナリオを回避したとの評価も、足元のユーロ圏経済足踏みからユーロはやや弱含んでいる。長期的には、景気回復や緩やかな利下げパスからユーロが次第に強含みする展開を見込む。
	期末値	1.08	1.06	1.08	1.10	
ユーロ円	レンジ	155 ～ 175	150 ～ 170	145 ～ 165	150 ～ 170	
	期末値	162	154	157	160	
ポンドドル	レンジ	1.19～1.31	1.17～1.29	1.20～1.32	1.20～1.32	円キャリーポジション巻き戻しの動きに年初からのポンド高円安トレンドは途切れた模様。BOEの利下げ開始や日銀の追加利上げが意識されることから、ポンド円は徐々に上値が重くなる公算。
	期末値	1.25	1.22	1.25	1.25	
ポンド円	レンジ	180～210	175～200	171～191	171～191	
	期末値	188	177	181	181	
ドル人民元	レンジ	7.20 ～ 7.35	7.10 ～ 7.30	7.00 ～ 7.20	6.90 ～ 7.10	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しており、人民元安を容認する姿勢を示している。金融緩和を含めた景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復はありながらも、ドル人民元が本格的に下落していくのはFRBが利下げを開始してからになる。
	期末値	7.30	7.20	7.10	7.00	
人民元円	レンジ	20.45 ～ 22.30	20.45 ～ 22.20	20.10 ～ 22.10	20.30 ～ 22.40	
	期末値	20.55	20.14	20.42	20.71	
豪ドル円	レンジ	93.00～109.00	93.00～107.00	96.00～104.00	96.00～104.00	豪中銀の利下げ開始はFEDよりもさらに遅れる見通し。グローバルの製造業景況感が回復すれば、24年度後半以降は対ドルでさらに底堅い動きとなりそう。
	期末値	100.00	102.00	100.00	100.00	
タイバーツ円	レンジ	3.50～4.50	3.50～4.50	3.70～4.80	3.70～4.80	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	4.15	4.20	4.35	4.35	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

2024/8/1
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
8/1(木)		7月ISM製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会	8/19(月)	6月機械受注		
			(中) 7月製造業PMI	8/20(火)	20年債入札		
8/2(金)		6月製造業受注		8/21(水)	7月貿易統計	20年債入札	
		7月雇用統計				FOMC議事要旨	
8/5(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (6/13~14開催分)	7月ISM非製造業景況指数		8/22(木)		7月中古住宅販売	(欧) 8月PMI (速報値)
8/6(火)	10年債入札	3年債入札	(豪) 準備銀行理事会	8/23(金)	7月消費者物価指数	7月新築住宅販売	
	6月家計調査	6月貿易収支	(中) 7月貿易統計	8/26(月)			(独) 8月IFO企業景況感指数
	6月毎月勤労統計 (速報)			8/27(火)		2年債入札	
8/7(水)		10年債入札				8月消費者信頼感指数	
8/8(木)	30年債入札	30年債入札		8/28(水)		5年債入札	
	7月景気ウォッチャー調査			8/29(木)	2年債入札	4-6月期GDP (改定値)	
8/9(金)			(中) 7月CPI			7年債入札	
8/11(日)	(山の日)			8/30(金)	7月鉱工業生産	7月個人所得・消費支出	
8/12(月)	(振替休日)				7月住宅着工件数		
8/13(火)	7月企業物価指数	7月PPI	(独) 8月ZEW景気指数		7月労働力調査		
8/14(水)	5年債入札	7月CPI	(欧) 4-6月期GDP (速報値)	8/31(土)			(中) 8月PMI
8/15(木)	4-6月期GDP (一次速報値)	7月小売売上高	(中) 7月生産・小売・投資				
		8月NY連銀製造業景気指数					
		8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数					
8/16(金)		7月住宅着工・許可件数					



◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【7/19～7/25】

◎今年初の利下げ、効果は不透明

中国人民銀行（中央銀行）は22 日、中国の政策金利に当たる貸出基礎金利（ロンプライムレート、LPR）1 年物を3.35%に引き下げ。引き下げは11 カ月ぶりで、今年に入ってから初めて。LPR1 年物に加え、住宅ローン金利の基準となる同5 年物、主要な短期政策金利の一つである7 日物のリバースレポ金利をそれぞれ0.10%ずつ引き下げた。政府は金融緩和により、年間目標に掲げる「5%前後」の経済成長の達成を目指す構えだ。ただ、資金需要は高まっておらず、利下げの効果は不透明だ。中国の景況感是不動産不況の影響を受けて引き続き芳ばしくなく、人民銀は今後も金融緩和を続ける見通し。

【7/19～7/25】

◎車価格競争に是正の動き、ドイツ系が値上げ

中国自動車市場で広がる価格競争の波を止めようとする動きが出ている。7 月に入ってからドイツ系をはじめBMW 等一部のメーカーが自社製品を実質値上げした。販売目標を軽減する中でも価格を引き上げることで業績を確保し、ディーラーを含めた経営の立て直しを図る狙いがある。値上げの動きに肯定的な姿勢を示すメーカーは多い、過度な価格競争を是正するよう呼びかける声が業界から相次いでいた。一方、NEV 新興勢は競合他社を振るい落とすための競争が背景で、値下げの波が今後も続くと予測。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6
実質GDP成長率	%	-	4.9	-	-	5.2	-	-	5.3	-	-	4.7
消費者物価上昇率	%	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2
都市部調査失業率	%	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0
輸出額	10億ドル	283.8	296.5	274.2	292.6	303.3	306.7	219.8	279.2	291.8	302.2	307.9
輸入額	10億ドル	216.6	221.3	218.3	223.6	228.5	222.4	180.7	221.1	219.8	219.7	208.8
経常収支	100万ドル	-	196,796	-	-	252,987	-	-	39,213	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7	3,200.8	3,232.0	3,222.4
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20	7.24	7.23	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国、オフィスでグリーンバナナの水耕栽培が流行

2010年頃、今年に入り、若者の間で「爆改（爆発的な改革）」が流行しています。例えば、最近、オフィスで グリーンバナナの水耕栽培という新しいトレンドが生まれています。

従来のオフィスに置く緑の植物とは異なり、約20－50本の成熟していないグリーンバナナを瓶に挿してオフィスに置きます。

グリーンバナナには「禁止蕉緑（グリーンバナナは禁止）」というプレートも付いています。グリーンバナナが成熟して黄色になるまでおよそ1週間は触れないようにという意味です。

「グリーンバナナ」を意味する中国語「蕉緑」は、不安、心配を意味する「焦慮」と発音が同じであるため、「禁止蕉緑」を中国語で発音すると「不安禁止」という意味にもなります。

緑から黄色に育てると「不安が消える」ということもあり、グリーンバナナの水耕栽培は若者にとってストレス解消の最新方法になっています。

グリーンバナナの水耕栽培はストレス解消に役に立つだけでなく、同僚との関係を良好にし、オフィスの雰囲気も良くする一種の社交ツールとして活用されています。グリーンバナナに同僚の名前を書き、だれが食べるかを決めて、成熟したら同僚と一緒に食べている写真もSNSに投稿されています。

このため、グリーンバナナはあつという間にインターネット通販の人気商品となり、1日の注文量は1万件、販売量は40トン以上だと報道されました。

グリーンバナナだけではなく、パイナップル、トマト、カボチャ等栽培対象を多彩にし、新たな発想を育てるオフィス文化も生まれています。

○「China travel」が人気

ビザ免除対象国の拡大を背景に、外国人の「China travel」ブームの勢いが増し続けています。

中国国家移民管理局のデータによると、中国全土の各出入国検査所から入国した外国人は前年同期比152.7%増の延べ1,463万5,000人に達しました。うち、査証（ビザ）免除措置を利用した入国者が前年同期比190.1%増の延べ854万2,000人に達しました。

ビザ政策以外に、交通、決済、予約等のサービスが更に便利になっています。中国を訪れたことのある外国人観光客の86%が中国での決済が素早く便利だと感じているとの統計もあり、いつでもどこでもスキャン決済ができることが、外国人観光客にとって中国での経験の新たなトレンドとなっています。

外国人観光客の訪中が急増し、世界中のSNS上でブームが巻き起こり、海外の複数のSNSでは「China travel」が検索ワードランキングで急上昇しています。中国当局は今年後半も外国人観光客の訪中ブームは高まり続けると予測しています。

外国人ブロガーのポールさんが中国の各地を観光した際に妹と一緒に撮影したショート動画の中で、中国語と英語をミックスした「city不city（cityかどうか）」というフレーズを使い、中国のネット上で話題を集めています。

「オシャレ」とか、「いけてる」といった意味の「city不city」は今、中国では旅行で人気の観光スポットに行った時や、オシャレな服を着ている時などの日常生活における様々なシーンで使われるようになりました。関連のコメントがSNSなどに1億件以上に寄せられています。

国営の中央テレビもこのトレンドにも注目し、「中国は皆さまを歓迎しています」とコメントしました。

◎注意事項をよくお読み下さい

2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2024年5月の国内経済、回復基調続く

タイ中央銀行は2024年5月の経済報告書で、タイ国内経済は回復基調が続いているとの見方を示した。観光業を中心とするサービスや政府系企業によるインフラ投資が経済を牽引した。民間消費指数は前年同月比1.2%増で、消費財等多くの分野とサービス分野での改善が続いている。一方で、民間投資指数は同3.0%減と低迷した。機械・設備投資や建設投資が不振だった。鉱工業生産指数も同1.5%減と2カ月ぶりに下落に転じた。化学品、食品等の生産が伸びた一方で、自動車、電子部品等の生産が減少した。

◆2024年6月CPI、3カ月連続でプラス

タイ商務省が発表した2024年6月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比0.62%増と、3カ月連続プラスになったが、前月の1.54%増より伸びが鈍化した。物価上昇率の鈍化の要因について、エネルギー価格の上昇や、野菜・果物も雨期に入り、出荷量の増加で価格高騰が収まったこと等が挙げられた。

分野別では、食品・飲料が前年同月比0.48%増、非食品が同0.71%増とそれぞれ上昇した。2024年1～6月のCPI平均値は前年同期で横ばいになった。

◆タイ中央銀行、政策金利を据え置き

タイ中央銀行は6月12日、2024年4月の会合に続いて4会合連続で政策金利（翌日物レボ金利）を2.50%に据え置くことを決定した。これについて、セーター首相は「中銀による利下げを望んでいる」とコメントしている。

◆2024年6月の平均為替相場

6月の対米ドル・バーツ相場は平均で1米ドル=36.71バーツで、前月の36.63バーツからバーツ安となった。対バーツ・日本円相場は平均で1バーツ=4.30円で、前月の4.25円から円安となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6
実質GDP成長率	%	-	1.4	-	-	1.7	-	-	1.5	-	-	-
消費者物価上昇率	%	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	0.2	1.5	0.6
失業率	%	1.1	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	24,280	25,476	23,579	23,480	22,792	22,650	23,385	24,961	23,279	26,219	-
輸入額	100万ドル	23,920	23,384	24,411	25,879	21,819	25,408	23,939	26,124	24,920	25,563	-
経常収支	100万ドル	467	3,154	1,099	-1,095	2,396	181	2,096	337	-45	647	-
外貨準備高	10億ドル	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4	221.1	224.3	224.3
主要政策金利	%	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	35.0	35.9	36.5	35.4	34.9	35.2	35.9	36.0	36.8	36.6	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/8/1

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年8月号)

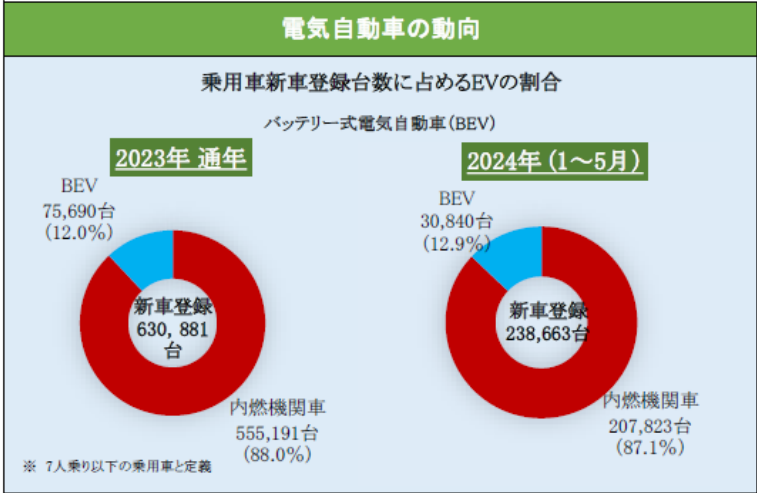
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

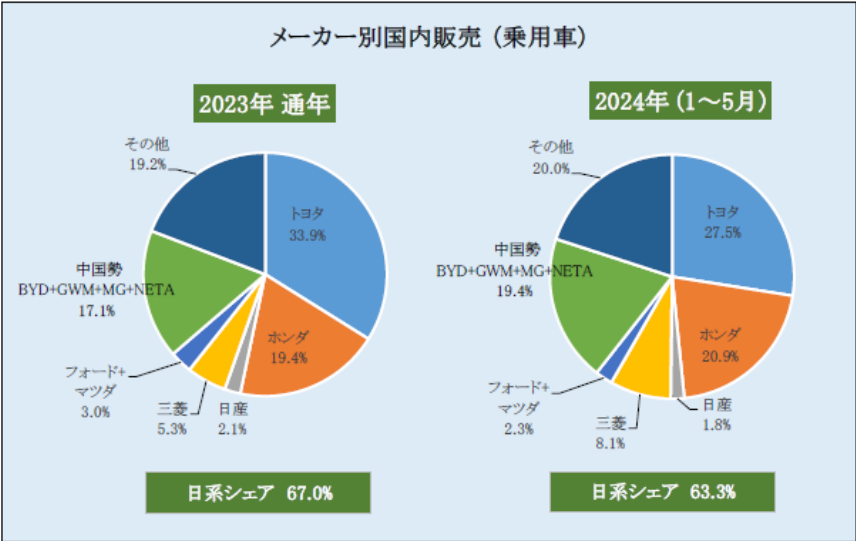
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向							
		2021年	2022年	2023年	2024年 (1～5月)	前年同期比 (%)	5月
【台数】		(台)					
四輪	生産台数	乗用車	599,844	600,839	648,803	240,190	88.7
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	404,761	80.1
		合計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	644,951	83.1
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	101,589	82.1
		商用車	507,319	584,319	483,275	158,776	72.9
		合計	759,119	849,388	775,780	260,365	76.2
二輪	輸出台数		959,194	1,000,256	1,117,539	429,969	97.7
	生産台数		1,780,654	2,015,940	2,120,738	837,975	91.0
	国内販売台数		1,606,481	1,792,016	1,856,814	739,988	90.9
	輸出台数		965,967	1,034,840	822,608	359,603	99.3
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪			561,147	619,348	719,992	300,375	109.9
二輪			75,985	73,729	68,589	28,585	94.5

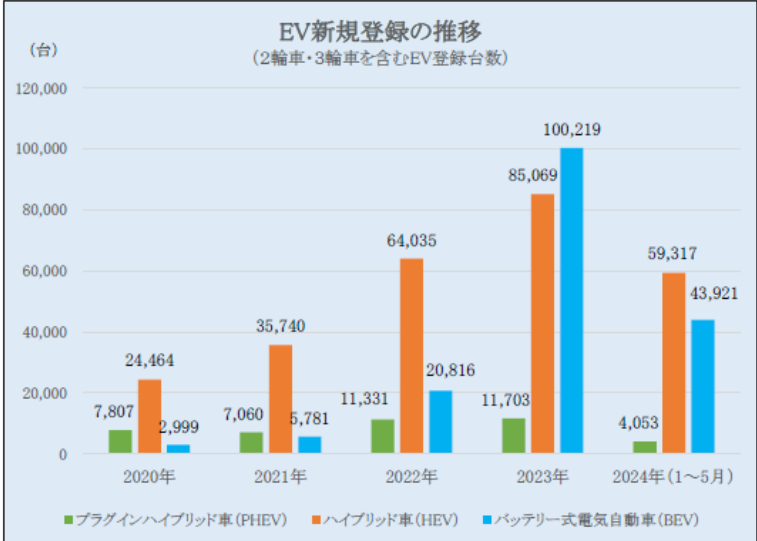
出所:タイ工業連盟 (FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局